

2016年4月

カロナール錠200

(アセトアミノフェンとして200mg/錠 含有)

小児科領域における解熱・鎮痛の投与量の目安

薬価基準： 7.60 円/錠

包装規格： PTP 100錠, 1000錠

薬価基準収載医薬品コード： 1141007F1063

レセプトコード： 620002023

アセトアミノフェンとして 10 ~ 15 mg/kg/回

年齢 (参考)	体重目安 (kg)	アセトアミノフェンとして 10mg/kg/回投与した場合		アセトアミノフェンとして 15mg/kg/回投与した場合	
		アセトアミノフェン として(mg)	カロナール錠200 として(錠)	アセトアミノフェン として(mg)	カロナール錠200 として(錠)
1歳	10	100	0.5	150	—
3歳	15	150	—	225	—
6歳	20	200	1	300	1.5
8歳	25	250	—	375	—
9歳	30	300	1.5	450	—
10歳	35	350	—	—	—
12歳	40	400	2	—	—
13歳	45	450	—	—	—
14歳	50	500	2.5	—	—

カロナール錠300

(アセトアミノフェンとして300mg/錠 含有)

小児科領域における解熱・鎮痛の投与量の目安

薬価基準： 8.50 円/錠

包装規格： PTP 100錠, 1000錠

薬価基準収載医薬品コード： 1141007F2027

レセプトコード： 620000033

アセトアミノフェンとして 10 ~ 15 mg/kg/回

年齢 (参考)	体重目安 (kg)	アセトアミノフェンとして 10mg/kg/回投与した場合		アセトアミノフェンとして 15mg/kg/回投与した場合	
		アセトアミノフェン として(mg)	カロナール錠300 として(錠)	アセトアミノフェン として(mg)	カロナール錠300 として(錠)
6歳	20	200	—	300	1
9歳	30	300	1	450	—

カロナール錠200 【効能又は効果】・【用法及び用量】

(アセトアミノフェンとして200mg/錠 含有)

包装規格: PTP 100錠, 1000錠

カロナール錠300 【効能又は効果】・【用法及び用量】

(アセトアミノフェンとして300mg/錠 含有)

包装規格: PTP 100錠, 1000錠

【効能又は効果】

- (1) 下記の疾患並びに症状の鎮痛
頭痛, 耳痛, 症候性神経痛, 腰痛症, 筋肉痛, 打撲痛, 捻挫痛, 月経痛, 分娩後痛, がんによる疼痛, 歯痛, 歯科治療後の疼痛, 変形性関節症
- (2) 下記疾患の解熱・鎮痛
急性上気道炎(急性気管支炎を伴う急性上気道炎を含む)
- (3) 小児科領域における解熱・鎮痛

【用法及び用量】

【効能又は効果】(1)の場合

通常, 成人にはアセトアミノフェンとして, 1回300~1000mgを経口投与し, 投与間隔は4~6時間以上とする。なお, 年齢, 症状により適宜増減するが, 1日総量として4000mgを限度とする。また, 空腹時の投与は避けさせることが望ましい。

【効能又は効果】(2)の場合

通常, 成人にはアセトアミノフェンとして, 1回300~500mgを頓用する。なお, 年齢, 症状により適宜増減する。ただし, 原則として1日2回までとし, 1日最大1500mgを限度とする。また, 空腹時の投与は避けさせることが望ましい。

【効能又は効果】(3)の場合

通常, 幼児及び小児にはアセトアミノフェンとして, 体重1kgあたり1回10~15mgを経口投与し, 投与間隔は4~6時間以上とする。なお, 年齢, 症状により適宜増減するが, 1日総量として60mg/kgを限度とする。ただし, 成人の用量を超えない。また, 空腹時の投与は避けさせることが望ましい。

<用法及び用量に関連する使用上の注意>

- (1) 乳児, 幼児及び小児の1回投与量の目安は表面のとおり。
(添付文書:「1.慎重投与」及び「2.重要な基本的注意」の項参照)。
- (2) 「小児科領域における解熱・鎮痛」の効能又は効果に対する1回あたりの最大用量はアセトアミノフェンとして500mg, 1日あたりの最大用量はアセトアミノフェンとして1500mgである。

--- 警告, 禁忌, 使用上の注意等については, 添付文書をご参照ください。 ---